



■計画の目標

集中豪雨の多発に伴う被害リスクの増大に対し、浸水対策を実施することにより、水害に強い県土づくりを推進し、安全安心な市民生活の確保を図る。

■計画の成果目標(定量的指標)

指標①：事業箇所における浸水被害軽減戸数の増加（5箇年で11,729戸）

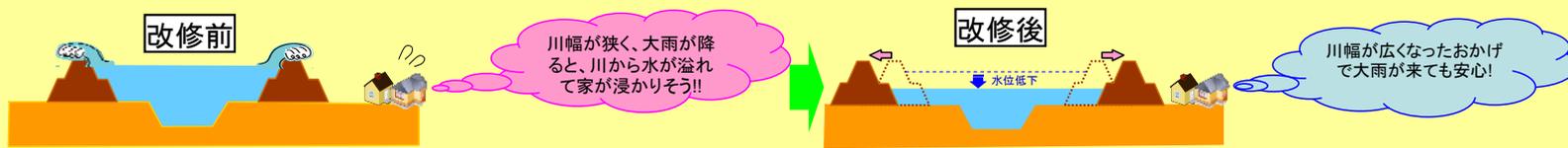
指標②：長寿命化計画の策定（5箇年で12件）

指標③：ダム管理用設備の年間故障回数を低減させ、規則操作に基づく安全確実な運用を可能とする（5箇年で0回）

●代表的な整備イメージ

洪水時の河川流量を下流に安全に流下させ、洪水被害を防御するため次のような対策を行います。

引堤：川幅を広げることで流下断面を拡大し、河川水位を下げます。

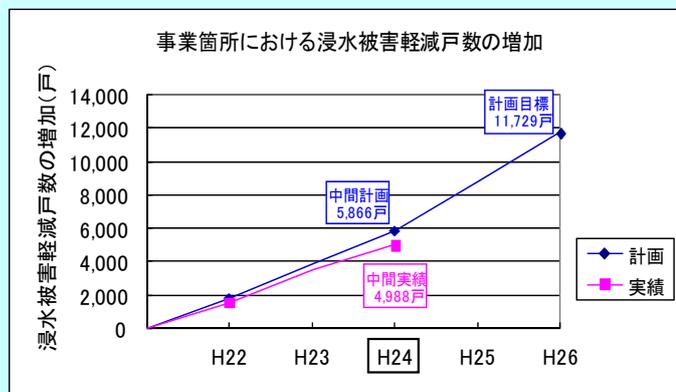


■中間評価結果及と今後の方針

計画の中間年である、平成24年度末時点の評価を行いました。各指標に対する状況は次のとおりです。今後も引き続き、最終年度における効果発現目標の達成に向け、事業を推進していきます。

評価①：事業箇所における浸水被害軽減戸数の増加

近年の公共事業費の削減や、災害対応を優先したことなどにより、当初計画の予算を充当できなかったため、中間目標値対して、85%の達成状況となっていますが、事業実施による浸水被害軽減戸数は着実に増加しています。



評価②：長寿命化計画の策定

河川管理施設のうち大規模な施設であるダムや防潮水門、排水機場等は、出水時の故障等により適正な操作に支障が生じると、甚大な浸水被害が発生する恐れがあるため、健全度や社会的影響度から優先度を考慮して作成した長寿命化計画を策定し、老朽化していく施設の信頼性の確保や長期的な維持管理費の縮減と平準化を目的とし、機器の予防的な整備(オーバーホール等)や更新を実施します。県内12施設のうち9施設について、平成23年度までに計画を策定し、平成24年度から対策に着手しています。

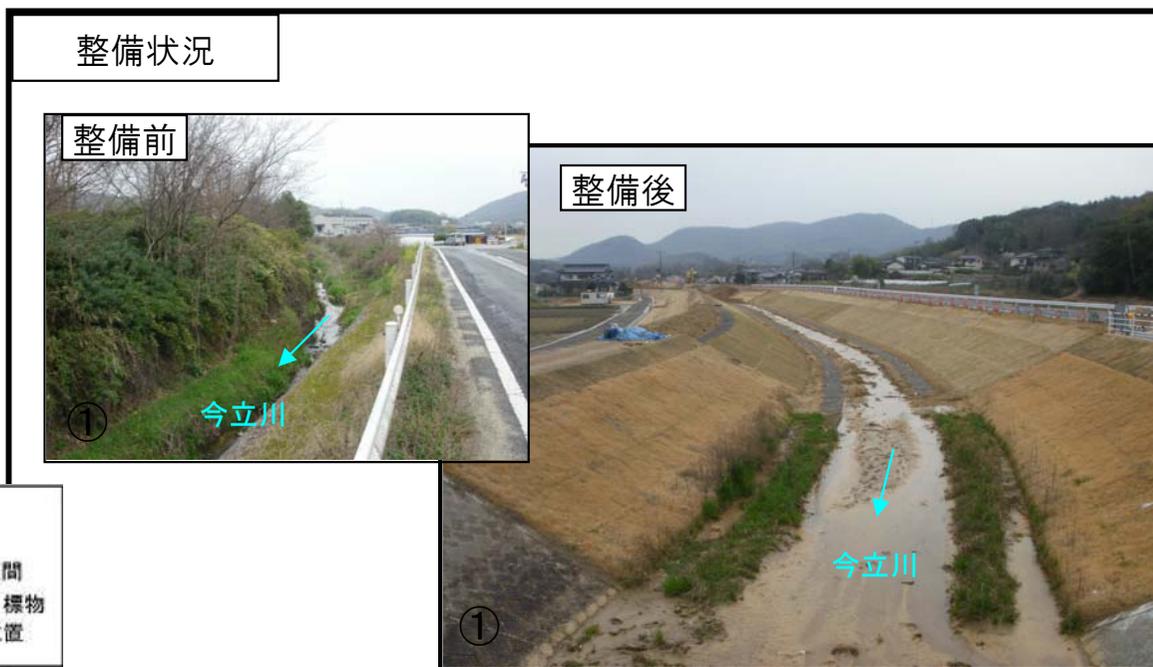
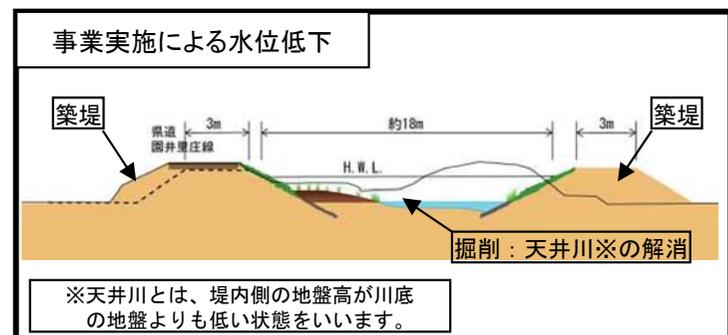
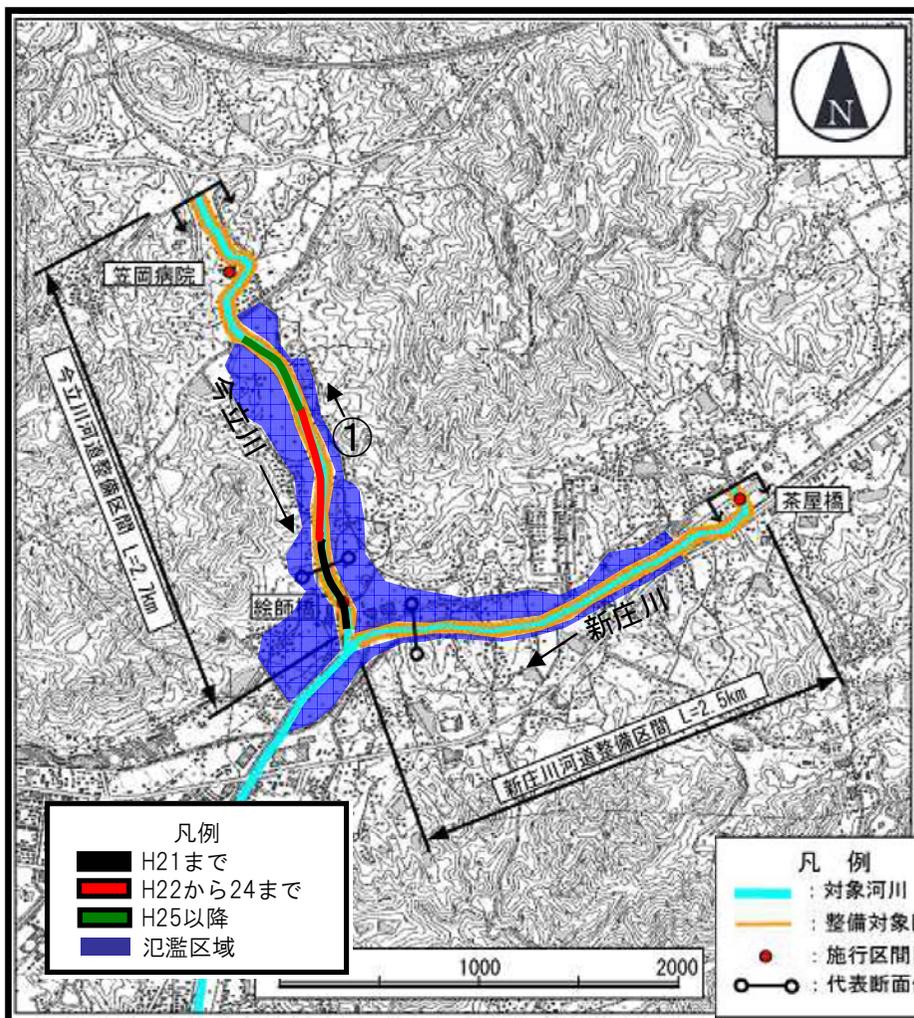
評価③：ダム管理用設備の年間故障回数を低減させ、規則操作に基づく安全確実な運用を可能とする

ダムの目的、管理運用形態や規模に応じた機能仕様の選択を行い、設備機能の集約化を図るとともに、他の分野で実績のある汎用品を活用することで、合理化とコストダウンを行いながら改良事業を実施、故障回数の低減を図りました。H24年度までの設備更新により、年間故障回数を28回まで低減させています。



◆総合流域防災事業(今立川水系今立川)

二級今立川水系今立川では、河積が小さく流下能力が不足しているため、昭和44年7月洪水、昭和51年9月洪水など、数多くの洪水に見舞われています。これらの頻発する水害に対応するため、昭和45年度から、築堤、河床掘削などの河川改修事業を実施しています。現在、新庄川合流点から上流2.7kmを整備区間とし、総合流域防災事業により整備を進めています。これらの整備により、天井川の解消及び50年に1回程度発生する規模の洪水に対する災害の防止が図られます。





◆特定構造物改築事業

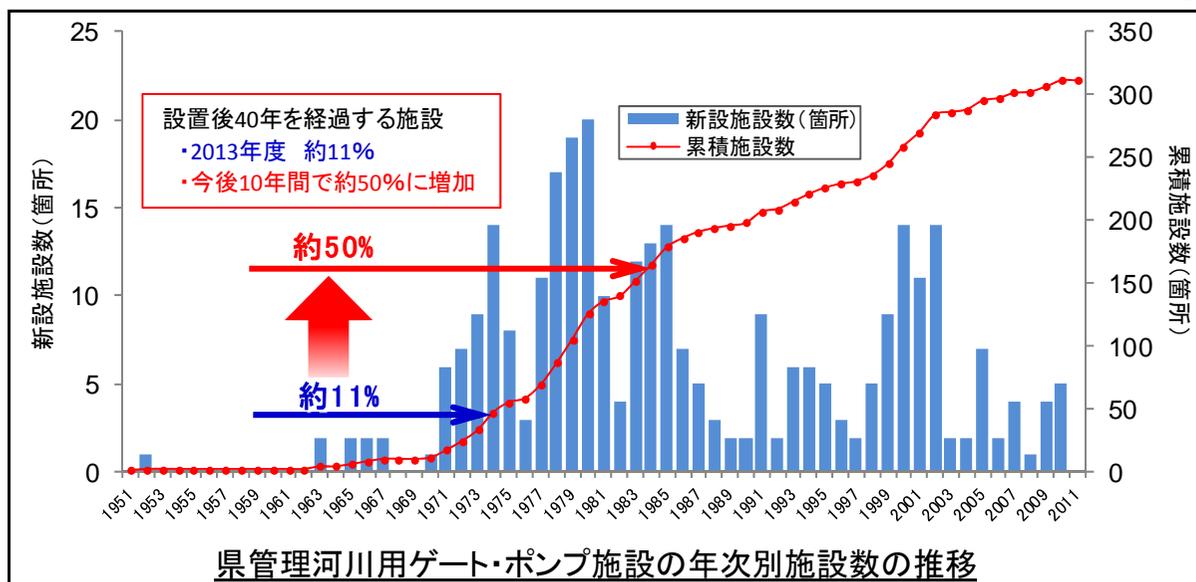
河川用ゲート及びポンプ設備は、高度経済成長時以降に多く建設されており、設置後40年を超える施設が今後急激に増加するため、老朽化に伴う維持管理費用の増加が懸念されています。

このような現状を踏まえ、施設の信頼性の確保や長期的な維持管理費の縮減と平準化を目的として、大規模な施設である排水機場及び防潮水門について、平成23年度中までに長寿命化計画を策定し、平成24年度から対策に着手しています。

●河川管理施設の老朽化の現状

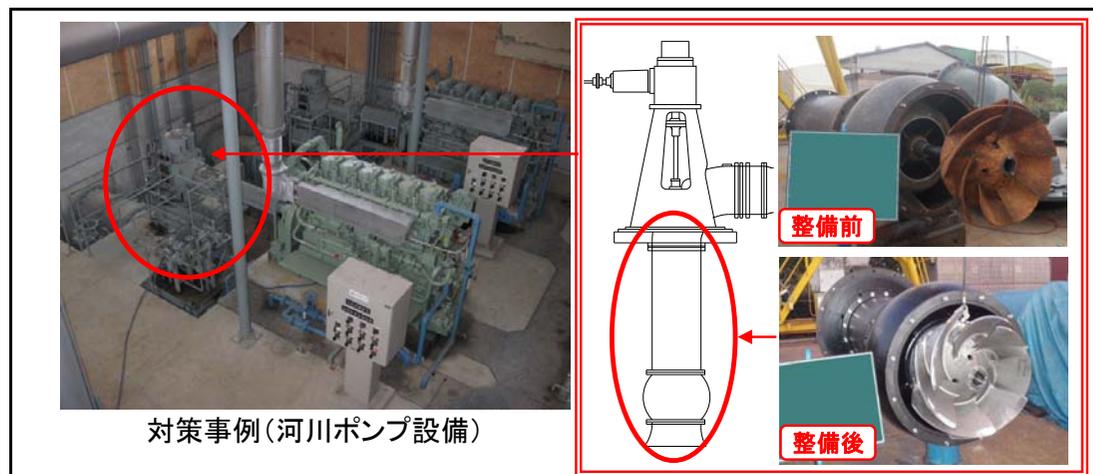
岡山県管理の河川用ゲート及びポンプ施設は、現在、300箇所程度あります。

このうち、施設設置後40年を経過する割合は2013年度で約11%ですが、10年後の2023年度では約50%に増加し、老朽化が加速度的に進むことが懸念されています。



●長寿命化計画の策定と計画的な老朽化対策

河川管理施設のうち、大規模な防潮水門や排水機場は、出水時の故障等により適正な操作に支障が生じた場合には、甚大な浸水被害が発生する恐れがあります。そのため、健全度や社会的影響から優先度を考慮して策定した長寿命化計画に基づき、施設の信頼性の確保や長期的な維持管理費の縮減と平準化を目的とし、機器の予防的な整備（オーバーホール等）や更新を実施しています。





◆堰堤改良事業(千屋ダム)

ダムは、洪水時に上流から入ってくる水を調節し、下流の洪水被害を低減させており、平常時には貯留している水を上水道や工業用水に用いるとともに、正常な流水を維持するため下流に流しています。ダムの管理用設備はそのようなダムの役割を適切に果たすために必要な設備であるとともに、ダムの諸状況（貯水率、流入量、放流量等）を広く一般に公開するために活用しています。

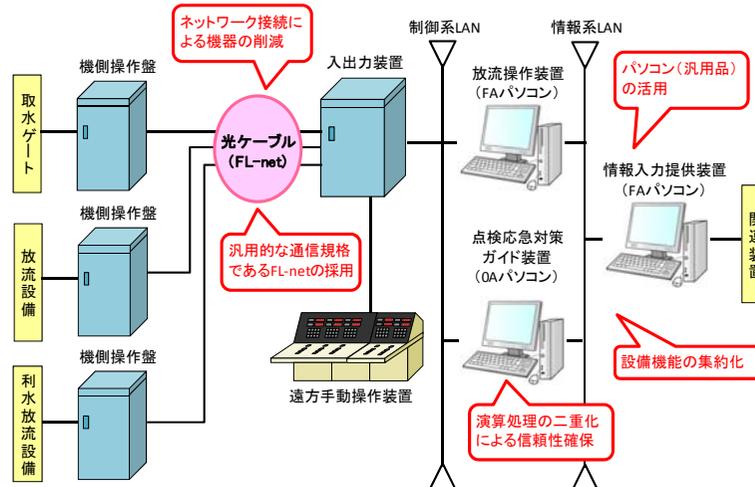
千屋ダムでは、設置から14年経過し不具合が増加した各設備について、機能の集約化を図るとともに、他の分野で実績のある汎用品を活用することで、合理化とコストダウンを実現しながら、順次設備更新を行っていくこととして事業を実施中です。



事業効果

- ・不具合が増加したダム管理設備について、システム合理化による再構築を行うことで、演算処理及び操作の確実性を確保し、さらなる信頼性及び安全性の向上を図る。
- ・岡山県総合防災情報システムとの連携により、一般県民へ確実な情報提供を行うと共に、危機管理体制の強化を図る。

システムイメージ



現況システム



更新イメージ

